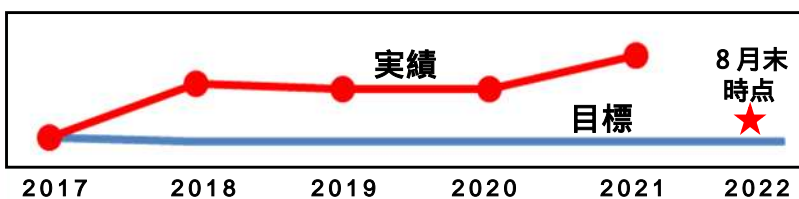


社会福祉施設における労働災害が増加しています

社会福祉施設における労働災害は、2018年以降目標を上振れして増加傾向にあり、今年（2021年）は昨年と比較して8月末同期比で減少に転じているものの、既に目標値を超過しています。



【図1】社会福祉施設における労働災害発生傾向
(第13次労働災害防止推進計画期間中、新型コロナウイルス感染症により患除く)

社会福祉施設の労働災害の特徴



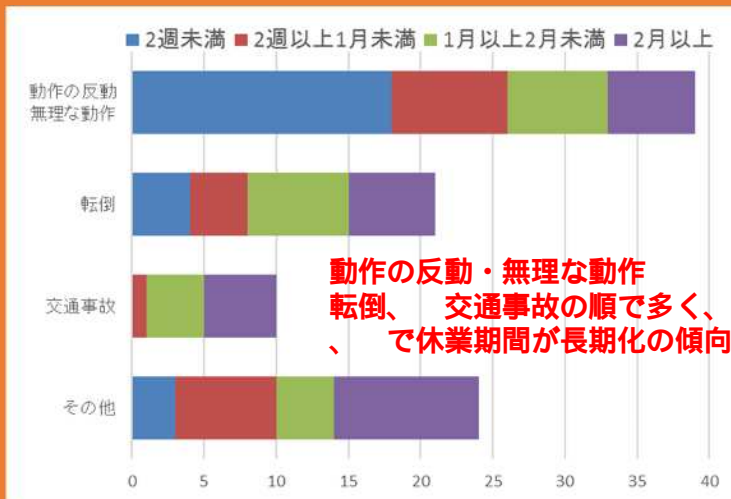
鶴見労働基準監督署
安全衛生推進キャラクター
美ちゃん

『動作の反動・無理な動作』による腰痛や捻挫
『転倒』による骨折
『交通事故』

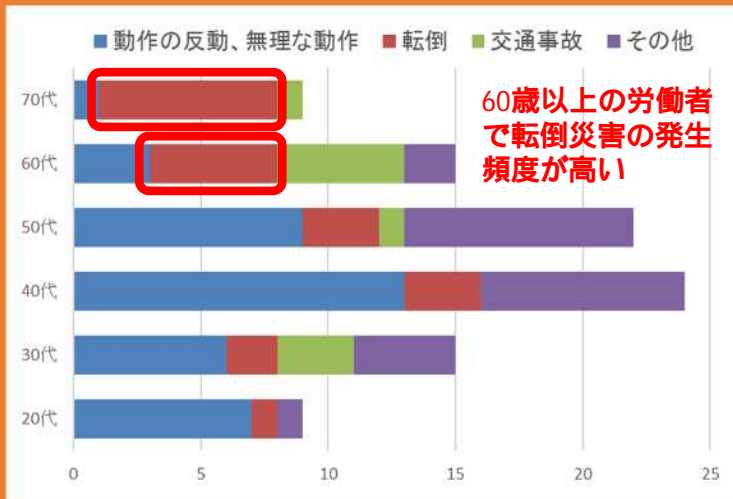
が多発しているよ

『60歳以上の労働者』で転倒災害の発生頻度が高いよ
『50歳以上の労働者』で1月以上の休業期間となっている比率が高く、骨折による休業災害が多発傾向にあるよ

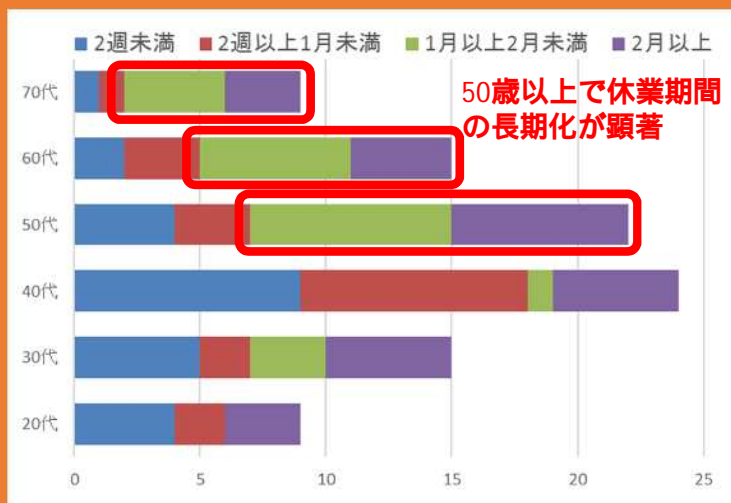
【図2】事故の型 / 災害程度別労災発生状況



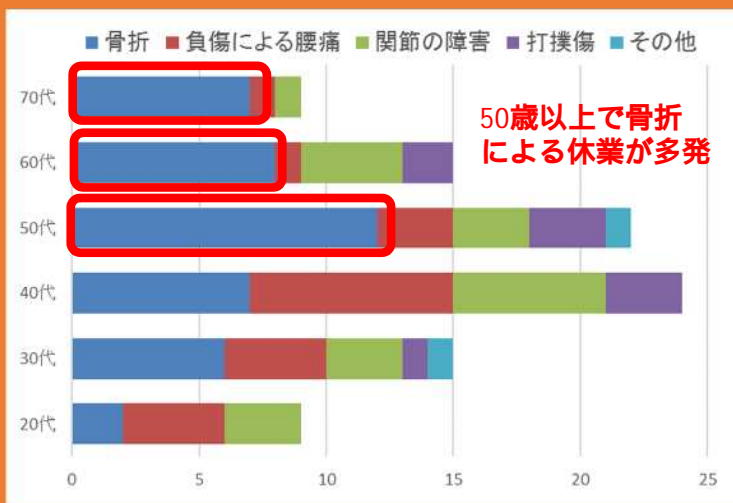
【図3】年齢 / 事故型別労災発生状況



【図4】年齢 / 災害程度別労災発生状況



【図5】年齢 / 傷病名別労災発生状況



【基礎資料】第13次防期間中に鶴見労働基準監督署管内の社会福祉施設から提出された労働者死傷病報告件数
(新型コロナウイルス感染症り患件数除く)

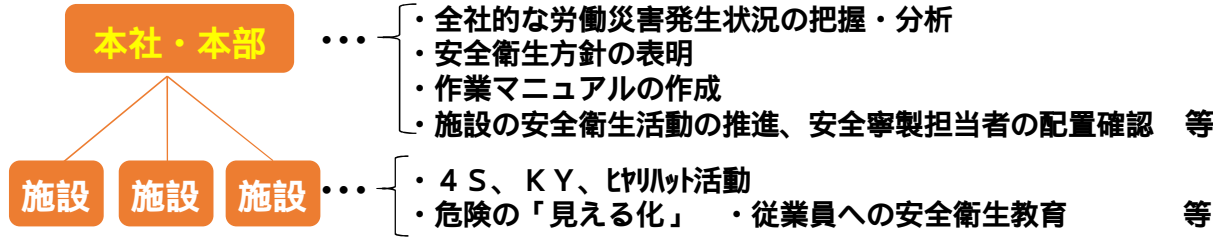
労働災害防止のための取り組みは裏面へ



以下の取り組みを行って、安心・安全な職場環境
をつくっていきましょう

法人本部主導による全社的安全衛生活動の展開

法人本部主導による施設の労働安全衛生活動の全社的な取り組み



『職場における腰痛予防指針』に基づく腰痛予防対策の実施

リスクアセスメント及びリスク低減対策の実施
作業標準の策定及び腰痛予防に関する労働衛生教育の実施
介護・看護作業における腰部に負担の少ない介助法の実施
省力化による人力への負担の軽減



転倒災害防止のための取組

職場の巡視

リスクの芽は職場のいたるところに存在します。
定期的な巡視を行うことで新たに芽生えたリスクの芽も逃しません。

4 S、表示・掲示、リスクの見える化

職場の巡視で発見したリスクの芽は、4 Sや設備改善により摘み取りましょう。

4 Sや設備改善を行っても摘み取れない芽は、リスクを低減させた上で注意喚起表示や掲示を行い、リスクの見える化を図りましょう。

ハザードマップの作成・情報共有

リスクの見える化を行った場所や、リスクが生じやすい場所をマップ化し、労働者間で共有しましょう。



『エイジフレンドリーガイドライン』に基づいた働く高齢者の特性に配慮した職場づくりの推進

身体機能の低下等による労働災害の発生を考慮したリスクアセスメントの実施
高年齢労働者が安全に働き続けることができるよう、事業場の実態に応じた施設・設備・装置等の改善及び体力の低下等の高年齢労働者の特性を考慮した作業内容等の見直し

労働安全衛生法に基づく雇入時及び定期的健康診断の確実な実施と、労働者の気付きを促すための体力チェックの活用



産業保健支援機関が行う転倒災害・腰痛災害防止サービスの積極的な利用

神奈川県産業保健総合支援センターにて

健康応援!

ゼロ災 無料出張サービス

実施中

運動指導士や理学療法士などの専門家を派遣して、実演による運動等の指導やアドバイス、従業員教育等を行います。



『交通労働災害防止のためのガイドライン』に基づいた交通労働災害防止活動

適正な労働時間等管理・走行管理

交通安全情報マップの作成

点呼の実施

教育の実施

自動車等の点検

季節・天候対策



鶴見労働基準監督署では、事業場の皆様から労働災害防止及び安全衛生管理の好事例を収集しています。皆さまの積極的な好事例の提供をおまちしております。

<https://jsite.mhlw.go.jp/kanagawa-roudoukyoku/content/contents/001196170.pdf>

鶴見労働基準監督署 第二方面 あて (Fax:045-501-4931)

